

平成30年度前期・学部授業評価まとめ

整理番号	講義名	講義コード	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
1	農学入門Ⅰ	18340101	118	85	72%	4.07	「教員は十分に準備して臨んでいた」「教員は熱意を持っていた」などの評価が高く、「授業内容についてより深く学びたいか」の評価も高かった。一方、「学生と教員とのやりとりの双方向性」に関する評価は低く、「授業の難易度」についても評価は低くはなかったが、高校で生物を選択していなかった人には難しいのではないかと思う話があったという自由記述があった。しかしながら、自分の興味のある分野を見つけるのに役立つなどの意見もあり、総合評価も高かったことから、総じて満足度は高いと判断でき、本講義の目的は達成できたといえる。	専門的な内容を易しく講義し、「農学」を幅広く知る機会を提供するとともに、「学びのきっかけ」となるように引き続き心がけていきたい。今回のアンケート結果から明らかのように、大人数の学生が相手ではあるが、教員各自が常に学生の理解度を確認しつつ、双方向性を持たせる工夫をする必要がある。また、従来からスライドを資料として提供して欲しいとの要望が多数あるようなので、徐々に対応を進める。シラバスやルーブリックについても、実際の講義内容をもとに、さらに詳しく記載する。	特になし
2	農学入門Ⅱ	18340102	117	107	91%	3.96	本講義は基幹教育研究院での新入生への講義である。全体的に高い評価を得ている。一番低い点数は、学修マネジメント(学生と教員とのやりとりには双方向性があった)の3.2であった。この原因は、10名以上の教員が分担して専門的な研究の話をするため、学生はこれを聞くだけの形になってしまうことにあると考えられる。	専門的研究の講義に対して、学生が大変興味深く聞いているという様子が見られる。一方で、学生と教員とのやりとりにおいて双方向性がないようなので、今後、この結果を担当者に伝えて工夫するように促したい。	
3	アグリフードシステムと農学	18340201	219	161	74%	3.66	すべての質問項目の評価が農学部平均値を下回った。受講者数が200名を超える授業であるため、学生・教員間のやりとりの双方向性など、改善が容易でないものもあるが、毎回の学習目標とその全体目標との関係性の明確化など、オムニバス形式の授業であるがゆえに欠かせない改善点が浮かび上がった。	毎回の学習目標とその全体目標との関係性の明確化については、早急に担当教員間で改善策を協議したい。また、その結果については、シラバスへの記載や各授業でのより丁寧な説明などを通じて、来年度以降の授業に反映させたい。	
4	分子細胞生物学	18340202	249	152	61%	3.65	受講生によっては基礎知識との乖離を感じているかもしれない。基礎生物学として習得すべき科目であるが、受講生の意識がまだ高められていないと思う。	教員4名で実施しているリレー講義である。今後も連携をとっていきたい	試験の結果、受講生の理解度に大きな差があることがわかった。200名を超えるので仕方ないが、農学部として身につけるべき基礎知識なので、受講生にもっと学習を促したい。アンケートでは物理選択の受講生にもっと配慮がほしいとあった。これは低年次も含めてカリキュラム全体の問題なので報告のみ挙げておく。
5	昆虫機能学	18341301	34	30	88%	3.94	「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」「教員は、授業に対して熱意を持っていた」などの評価が高く、「授業の難易度は適切であったか」などの評価が平均値よりも低かった。「総合的に考えて、現在この授業に満足している」については、高い評価であった。	授業内容については、適切であると思われる。難易度については、よりわかりやすい授業に努める。また、受講者の興味や関心を引くような説明を心がけていきたい。また、双方向性に工夫を凝らして、より一層理解が深まるようにしたい。	
6	作物学各論	18341302	30	18	60%	4.25	全体的な平均値は4.25であり、総合的に判断して概ね本講義の目的は達成できた。本講義は、主にPPTとプリント等を用いて講義を実施したが、「教員の説明は分かりやすかった」、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」、「授業の難易度は適切であった」、「教員は、授業に対して熱意を持っていた」が4.3とポジティブな評価であったことから、PPTとプリントの関係性や講義スピードなどが適切だったと思われる。しかしながら、全ての項目で1評価が1名あり、アンケートの回収率も低かった。	若干ではあるが、シラバスとのずれが生じたので、次年度は講義スピード等を考慮したシラバスへと変更したい。また、実際の作物に触れて、考えることができるような、双方向性ををもう少し意識しながらやっていきたい。	
7	園芸資源植物学	18341303	36	17	47%	4.16	本授業では日本原産の園芸作物を中心に、品種の来歴、栽培方法、育種の経緯などについてスライド、プリント等を用いて講義を行った。今年度の学生の評価によると、「学生と教員とのやり取りには双方向性があった」、「教員は授業に十分に準備して臨んでいた」、「教員は授業に対して熱意を持っていた」という項目に関して、「5. 強く思う」と感じた学生が最も多かったことから、授業の準備と実施に関して問題はなかったと思われる。一方、「シラバスの学習目標は明確だった」、「教員は毎回の授業で学ぶべき重要な目標を明確にした」という項目に関して、「3. どちらでもない」と回答した学生が三分の1程度いたことから、学習目標がやや明確でなかったと思われる。ただ、総合評価はアンケートに回答した17名中16名がほぼ満足できたと回答したことから授業の内容はおおむね適切だったと判断できる。	シラバスと授業の進捗がずれていたところがあったので、今回は実際の授業の進め方を想定したシラバスを準備したい。また、前半の授業のペースがやや遅いとの意見もあったので適切なペースで授業を進めたい。	
8	天敵微生物学	18341304	36	21	58%	4.24	アンケート回収率については、全体平均をやや下回った。これまでの回答方法(紙媒体)では90%程度の回収率であったが、今回、最後から2回目の授業時にアンケート実施時間を取って回答してもらい、さらに最後の授業時に再度回答依頼を行ったにもかかわらず、このような結果となった。全項目にわたり、概ね良好な評価を得た。特に、授業の準備と熱意については高評価であった。一方で、授業内容が難しかったためか興味を抱くことができず、学習意欲に繋がらなかった受講生が僅かに認められた。	昨年度に引き続き、概ね授業内容は適切で、その準備も十分に成されていると判断できた。授業内容の難易度については、数名の意見のために現在よりも容易にすることは困難であるため、パワーポイント及びその配布資料を適宜改訂しながら、受講者の興味や関心を引くような説明を心がけていきたい。また今後も、受けた質問全てへ分かりやすく回答することで、受講生の疑問を解消し、より一層理解が深まるようにしていきたい。	
9	生物的防除学	18341305	37	20	54%	4.24	アンケート回収率がやや低かった。講義全体としての満足度は回答した学生中の90%が、そう思う、ないしは、強くそう思うとしており、講義の満足度としては一定の評価を得たと思う。双方向性に関する項目と授業内容の分かりやすさについては平均を大きく上回った。それ以外の項目はおおよそ平均であった。朝1限目の講義であったためか、出席に関する項目が4.1と平均の4.3を下回っていた。	授業評価を適切に行うためアンケートの回収率を大幅に上げたい。	
10	園芸科学各論	18341306	37	17	46%	4.34	設問1～設問10のすべてにおいて、平均値は4.1以上であった。授業への教員の取り組み(設問6, 7)に対してポジティブな評価がなされていた。1(全く思わない)の評価をした学生はいなかったが、双方向性(設問4)、出席(設問8)で2の評価をした学生がそれぞれ1名ずついた。	先に述べたように、双方向性(設問4)、出席(設問8)で2の評価をした学生がそれぞれ1名ずついたため、次回以降の講義ではこの点に留意しながら取り組んでいきたい。総じて高評価ではあったが、さらにわかりやすい授業、満足度の高い授業ができるよう、努めていきたい。	講義最終回に授業評価アンケートに関するアナウンスを行ったが、回収率は45.9%(37名中17名)であった。そのため、授業に関する正確な評価が行われていない可能性がある。より正確な授業評価がなされるようにするためにも、次回以降は回収率の向上に努めたい。
11	植物育種学総論	18341311	33	17	52%	4.08	本講義の担当は初めてであった。受講生は33名、アンケート回収率は17名でアンケート回収率が50%程度と低調であった。注意喚起して提出(入力)してもらう必要があった。評価の項目別スコア(5段階評価)は全て3.5以上で授業実施内容としては総じて健全であると考えられる。	本講義の担当は初めてであった。前任者ならびに教科書の資料に依拠するところも多く、必ずしも担当教員の(潜在的な)意向を十分に反映したとは言えなかったかもしれない。一方で、既成の学問領域(植物育種学)について、蕭々と講義をすることによって、「植物育種学総論」としての基盤的情報を教授(情報の提供)することについては、達成していたと考えられる。このことは、試験における到達度をみても9割以上の受講生が講義内容、試験内容を消化吸収していたことから裏付けられた。過去21回分を担当してきた「植物育種学各論」(後期:第3・4クウォーターに開講)との講義内容の整理が不可欠である。	
12	植物生産生理学	18341312	33	20	61%	3.83			

平成30年度前期・学部授業評価まとめ

整理番号	講義名	講義コード	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
13	植物病理学総論	18341313	33	19	58%	4.07	アンケートの分析は、受講者数33名に対して19名の回答を得、回収率57.6%の結果となり、この数値に基づき各項目の分析がなされている。 授業評価アンケートの6項目(10項目中)で平均値が4.0以上(5段階中)であった。一部4.0を下回った項目は、「シラバスの学習目標は明確だった」、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」、「教員の説明はわかりやすかった」と「この授業内容についてより深く学びたいか」の4項目であった。	今後授業内容等を大幅に修正することは考えていませんが、授業終了後に個別に対応できるような形で学習支援を実施することを考えている。また、学習目標を明確化するとともに、「双方向性の授業」を試みてみたい。	
14	環境昆虫学	18341314	45	37	82%	4.49	「教員は十分に準備して臨んでいた」「教員は熱意を持っていた」などの評価が高かった。また、「教員の説明のわかりやすさ」や「学生と教員とのやりとりの双方向性」に関する評価も比較的高く、半数以上が5ポイントをつけていた。「より深く学びたいか」について評価は他の項目ほど評価は高くはなかったが、非常に興味深い内容だった、奥の深い学問だと感じたなどの自由記述もあり、総合評価も高かったことから、総じて満足度は高いと判断できる。	これまで「学生と教員とのやりとりの双方向性」についてはあまり評価が高くなかったが、質問があれば出席用の紙に書いてもらい、それに毎回丁寧に答えたのがこの項目の評価を上げた要因と思われる。また、学生が主体的に学習するように心がけ、調べる姿勢を身につけさせることはある程度できたが、じっくりと思考する時間は少なかつたように思われる。次回の講義では、考える力を培うためにも、学生が主体的に思考・学習できるように、創意工夫したい。	特になし。
15	灌漑工学	18342301	28	12	43%	3.64	アンケート回収結果から、回収率は低いものの評価が低かったことは反省する必要がある。	前回に加え、より具体的に現実的な内容を学生に伝えるようにする。特に、例年のように学生を現場に引率し、実際の現場を視察するなど、現実に対応しい講義内容に転換する努力をする。引き続き中間試験やレポートを課して、学生の理解を助ける努力をする。	
16	多変量解析入門	18342302	41	13	32%	4.42	アンケートの回収数が約1/3(13名)と一部であったため、否定的な評価を拾い切れていない気がする。評価項目の全てが4以上であったが、感触としてはもう少し悪い気がする。双方向性や学習意欲の面で若干低い評価が見られたため、この点を今後の改善課題としたい。	授業に双方向性が出るような進め方について研究するとともに、学習意欲を引き出す課題を講義に導入する。	
17	農地環境工学	18342303	30	11	37%	3.74	今期から新しい授業評価(授業アンケート)方法に変わったが、回収率は37%と低かった。授業評価結果で農学部開講科目の平均値より数値がよかった項目は共-211(授業の難易度は適切であったか)、悪かった項目は共-53(教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示したか)、60(学生と教員とのやりとりには双方向性があったか)、67(教員の説明はわかりやすかったか)、68(教員は、授業に十分準備して臨んでいたか)、81(教員は授業に対して熱意を持っていたか)、18(授業には遅刻することなく毎回出席したか)、221(この授業内容についてより深く学びたいか)、10(総合的に考えて、現在この授業に満足しているか)、ほぼ同程度であった項目は共-51(シラバスの学習目標は明確だったか)の項目であった。全体的には、学部の平均よりかなり低いという結果であった。 学期末試験結果(平均点の低下、不合格者数の増加)や受講状況(欠席が多い、内職・居眠りが多い)、課題レポートの提出状況(提出の遅れや未提出者の増加、内容の質的低下)などから判断すれば、今回の授業アンケート結果は、(回収率は低かったが、)現状(授業内容・方法に不満を持っている人がかなり存在する)をある程度は反映していると思われる。	(2)次回の講義への対応 今回の授業アンケート結果などを踏まえて、授業内容や教え方の継続的な改善に努めたい。特に、授業のテーマ・目標や授業方針を明確に伝えるとともに、授業中の質疑応答などを通して、学生の理解度を絶えず把握しながら授業を進めるように心がけたい。また、タイムリーな話題や現場(実務)の問題を授業で取り扱うことにより、授業(内容)に興味・関心を持たせ、より能動的な姿勢で授業に臨ませるようにしたい。授業アンケートについては、回収率向上のための工夫・改善を図りたい。	特になし。
18	土壌物理学	18342304	22	9	41%	3.22	シラバス通りの講義を行ったものの、引き続き最初の講義であったために、難解な教科書を選択した嫌いがある。中間試験、複数回のレポートを課したものの、学生の理解が得られなかったことは反省すべきである。	教科書を平易な和書に変更した。また、昨年同様中間テストやレポートを課して、学生への周知を図りたい。	
19	排水工学	18342305	21	9	43%	4.04	各項目の平均値は、「シラバスの学習目標は明確だった」=4.1、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」=4.0、「授業の難易度は適切であったか」=3.8、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」=3.4、「教員の説明はわかりやすかった」=4.1、「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」=4.4、「教員は、授業に対して熱意を持っていた」=4.4、「授業には遅刻することなく毎回出席した」=4.2、「この授業内容についてより深く学びたいか」=3.9、「総合的に考えて、現在この授業に満足している」=4.1、以上であった。	平均値4.0未満の項目は、「授業の難易度は適切であったか」=3.8、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」=3.4、「この授業内容についてより深く学びたいか」=3.9、以上の3項目であり、改善が必要である。数学的な箇所を中心に難易度を下げることが難しいため、補足説明を教化する必要がある。双方向性を上げて、魅力ある授業内容にする必要がある。	特になし。
20	農業気象学	18342306	23	16	70%	4.19	・回答率69.6%(=回答数16/履修者数23) ・全質問項目の、回答5および4と回答したものが75%以上で、全般的には良い評価が得られた ・若干名(1名)の不満も見られた	若干名の不満が出ていた、「シラバスの明確さ」、「授業の目標の明確さ」をより改善したい	・アンケートにおいて自由記述のコメント回答がなかった。自由コメントは学生の意見をより多く拾い上げることが出来るので、次回はその点の回答を得られるよう努めたい。
21	構造力学 I	18342307	29	10	34%	3.87	今期から新しい授業評価(授業アンケート)方法に変わったが、回収率は34.5%と低かった。授業評価結果で農学部開講科目の平均値より数値がよかった項目は共-60(学生と教員とのやりとりには双方向性があったか)、68(教員は、授業に十分準備して臨んでいたか)の項目、悪かった項目は共-53(教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示したか)、67(教員の説明はわかりやすかったか)、81(教員は授業に対して熱意を持っていたか)、18(授業には遅刻することなく毎回出席したか)、221(この授業内容についてより深く学びたいか)、10(総合的に考えて、現在この授業に満足しているか)、ほぼ同程度であった項目は共-51(シラバスの学習目標は明確だったか)、211(授業の難易度は適切であったか)であった。全体的には、学部の平均より幾分低いという結果であった。しかしながら、学期末試験結果(平均点の低下、不合格者が多い)や受講状況(欠席・遅刻が多い、内職・居眠りが多い)、課題レポートの提出状況(提出の遅れ、未提出者の増加、内容の質的低下)などから判断すれば、今回の授業アンケート結果は、(回収率が低かったため)現状(授業内容や方法に不満を持っている人がかなり存在する)を十分反映していないと思われる。	今回の授業アンケート結果などを踏まえて、教え方の継続的な改善に努めたい。特に、授業のテーマ・目標や授業方針を明確に伝えるとともに、受講状況や課題レポートの提出状況などを通して、学生の理解度を絶えず把握し、必要があれば、授業中の追加説明や配布資料の追加、個別指導、などを適宜実施したい。また、課題レポートへの取り組みについては、これまでは自主性を重んじていたが、今後は取り組み状況を改善するために何らかの対策を実施したい。授業アンケートについては、回収率向上のための工夫・改善を図りたい。	特になし。
22	環境分析化学	18342309	22	8	36%	3.73	修学デザインに関わるシラバスの及び毎回の講義の学習目標の明示や難易度の設定、就学マネジメントに関わる双方向性や、インストラクションに関わる説明のわかりやすさについては、科目群平均程度で悪い評価はネガティブな評価はなく、授業内容や全体の構成としては適切だった。ただし、授業に対する準備の周到さや熱意、授業内容をより深く学びたいかの評価が低かった。今年は教科書中心の授業を意識したのだが、学生にとって周辺知識のフォローが不十分で内容の重要さが伝えられなかったかもしれないと考えた。	補足資料を増やして、教科書を中心としつつも知識の活用方法が理解できるように心がけ、興味を引く授業にする。内容自体はより精選し、到達目標が明確になる授業構成とする。	M2Bシステムを使用した初めてのアンケートで学生の回答率の調べ方がわからなかったため、回答への呼びかけが難しく、最終的なアンケート回収率が36.4%と低かった。回収率向上のため、学生ごとのアンケート回答の有無や回答期間中の回収率がシステム上で分かるようになるとありがたい。

平成30年度前期・学部授業評価まとめ

整理番号	講義名	講義コード	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
23	水理学Ⅱ	18342313	25	8	32%	4.22	「授業の難易度は適切であったか」、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」、「この授業内容についてより深く学びたいか」の回答が3.9ということで、肯定的回答の目安となる4を若干下回った。しかし、他の項目では4を超えた回答であること、また本講義が数理系の応用科目であり、農学部学生にとって数物系科目が毛嫌われる昨今において、本講義はある程度受け入れられたと考えるべきである。特に、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」、「教員の説明はわかりやすかった」、「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」、「員は、授業に対して熱意を持っていた」について5と回答した受講生が6割を超えていたことから、全体的に評価の高い授業を提供できたと考えられる。	授業の難易度への不満はこれまでは少々指摘されたいので、ある程度、再考する予定である。しかし、本講義が当該分野のエッセンシャル的な位置づけにあることから、安易に難易度を下げることはいらない。また、今回アンケートとの回収率が低かったことから、もう少し授業の中で周知徹底する努力をする。	「授業の難易度は適切であったか」の設問については、得意・不得意に関わらず、九州大学3年生としてのレベルから評価がなされるべきであり、併せて自動努力という能動的姿勢が求められるべきである。
24	土質理工学Ⅱ	18342314	24	11	46%	3.89	今期から新しい授業評価(授業アンケート)方法に変わったが、回収率は46%と低かった。授業評価結果で農学部開講科目の平均値より数値がよかった項目は共-51(シラバスの学習目標は明確だったか)、悪かった項目は共-53(教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示したか)、211(授業の難易度は適切であったか)、67(教員の説明はわかりやすかったか)、68(教員は、授業に十分準備して臨んでいたか)、81(教員は授業に対して熱意を持っていたか)、18(授業には遅刻することなく毎回出席したか)、10(総合的に考えて、現在この授業に満足しているか)、ほぼ同程度であった項目は共-60(学生と教員とのやりとりには双方向性があったか)、221(この授業内容についてより深く学びたいか)の項目であった。全体的には、学部平均より幾分低いという結果であった。学期末試験結果(平均点の低下、不合格者数が多い)や受講状況(欠席が多い、内職・居眠りが多い)、課題レポートの提出状況(提出の遅れ、内容の質的低下)などから判断すれば、今回の授業アンケート結果は、(回収率は低かったが、)現状(授業内容・方法に不満を持っている人がかなり存在する)をある程度は反映していると思われる。	今回の授業アンケート結果などを踏まえて、授業内容や教え方の継続的な改善に努めたい。特に、授業のテーマ・目標や授業方針を明確に伝えるとともに、授業中の質疑応答などを通して、学生の理解度を絶えず把握しながら授業を進めるように心がけたい。また、タイムリーな話題や現場(実務)の問題を授業で取り扱うことによって、授業(内容)に興味・関心を持たせ、より能動的な姿勢で授業に臨ませるようにしたい。授業アンケートについては、回収率向上のための工夫・改善を図りたい。	特になし。
25	生物生産機械学	18343302	13	6	46%	4.36	本講義の内容については、概ね理解していると思われる。但し、機械の構造・作用に関する詳細な説が不足していると思われる。	機械の構造・作用についての説明資料を加えたい。	
26	農産食料工学	18343303	12	4	33%	4.45	回収率が低く、十分な考察は行えないが、概ね良好な結果であった。担当初年度であったため講義資料が不十分な点もあったが、特に指摘は無かった。また、双方向的授業が成り立っているとの評価を得た。	テキストの充実に努めたい。	
27	熱工学	18343304	13	4	31%	4.29	内容的には非常に高度な内容を含み、分かつらうと思われる回もあったと考えていたが、全項目で概ね肯定的意見となる評点4を超えており、より丁寧な説明に心がけた点が結果に表れたものと考えられる。本講義は担当初年度であったため、準備不足の感もあった(評点4)。特に、テキストベースで理解させることが多く、板書が少なかった。この点について改善していきたい。	理解を深めるよう口頭説明と板書のバランスを改善していきたい。	
28	材料力学	18343307	14	5	36%	4.44	・アンケートへの回答数が少なく、十分な考察は行えないものの、本講義は一部の項目を除いて概ね学生から高く評価されていると思われる。 ・講義時間の中で演習問題の解答時間を十分に設けることができないため、双方向性に欠けると回答した学生がいた。	・M2Bの操作に慣れていない学生が複数いた。次回からは講義のはじめに操作方法の説明の有無を確認することとした。 ・可能な限り学生の理解度を把握するため、学生からの質問や講義時間内に演習問題を解く時間などを設けたいと思う。	・M2Bの動作速度の問題や通信不良が発生したことで、講義進行への支障(通信不良による講義の遅延)が複数回発生した。M2Bの利用を推奨するのであれば、システムが安定的でかつ快適に動作するようにしてほしい。kitenetの通信不良が生じることもあった。
29	農業経営学	18344302	23	19	83%	4.66	学修デザインや学修マネジメントについては、「シラバスの学習目標は明確だった」(4.8点/5点満点)、「授業の難易度は適切であった」(4.7点)、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」(4.7点)、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」(4.6点)等の高い評価であった。また、インストラクションや授業者の特徴についても、「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」(4.7点)、「教員の説明はわかりやすかった」(4.7点)、「教員は、授業に対して熱意を持っていた」(4.7点)等の高い評価であった。その他の項目でも「授業には遅刻することなく毎回出席した」(4.5点)、「この授業内容についてより深く学びたい」(4.5点)であり、総合評価においても4.7点(5点満点の94%)の高い評価といえる。	授業は概ね高い評価を得ているが、さらに学生の学習意欲と理解度を高める工夫を心掛けたい。	
30	食料産業組織論	18344303	22	16	73%	4.71	必修科目であるにもかかわらず、すべての質問項目において評価が4.4~4.9と高く、すべて農学部の平均値を上回った。総合評価が4.8と高いばかりか、授業の改善要望に関する自由記述もなく、高い評価を得ることができた。	総じて高い評価を得ることができたので、現在の授業を踏襲していきたい。ただ、学生のニーズは多様であるので、授業中に学生の要望を積極的に聞くなどして、柔軟な対応を心がけたい。	
31	食料流通経済学	18344304	27	15	56%	4.71	単純集計の結果は、科目群平均が4.2に対して担当講義は4.8であった。カテゴリー別にみると、「学生と教員の双方向性があった」が4.5で最も低かった。	受講者が30名を超え、双方向性を取る講義形態の実践が困難であるが、なるべく授業の理解度を確認しながら進めていきたい。	
32	環境経済学	18344305	26	15	58%	4.18	「シラバスの学習目標は明確だった」は4.5(科目群平均4.0)、「教員は授業に対して熱意を持っていた」は4.5(同4.3)であり、両項目については5が70%以上であり良好であった。他方、「教員の説明はわかりやすかった」は3.5(科目群平均4.0)、「学生と教員のやりとりには双方向性があった」は3.9(同3.7)、「この授業内容についてより深く学びたいか」は3.9(同4.0)などについては、必ずしも良好でなかった。特に、説明がわかりやすいものではないという指摘が多かった。 なお、総合評価では4.3であり、科目群平均4.2を0.1ポイント上回っているものの、ほぼ平均的な評価と言える。	本授業では、他の講義科目と異なり、新しい概念の導入が多いため、わかりにくかったと思われる。学生の理解度を高めるように、説明を工夫したい。	特になし。
33	農業構造論	18344308	25	14	56%	4.63	授業評価では全ての項目で科目群平均を上回り、全体として高い評価を受けた。特に「教員は授業に十分準備」4.7、「教員は授業に熱意」4.8のポイントが高かった。なお葉池院は上回っているものの、「この授業内容についてより深く学びたいか」4.4がやや低かった。そのことを踏まえ、本科目で提供した基礎的な理論と実態認識を、より深めるための刺激を与えることが必要と判断される。	全体として評価が高かったため、現在の授業実施方式を継続するが、本科目の授業内容についてより深く学ぶ動機付けを強めるために、授業で講義する基礎理論と基本的な現状認識から、日本の農業構造と構造政策が直面する、ピピットで深刻な課題についてもより詳しく紹介し、そこへの知的好奇心を醸成する内容を付加したい。	
34	農業農村計画論	18344309	28	24	86%	4.32	授業評価アンケートすべての項目で平均値が4.0以上であった。授業に関する良かった点は、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」が最も多く、次いで「シラバスの学習目標は明確だった」、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」、「教員の説明はわかりやすかった」、「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」、「教員は、授業に対して熱意を持っていた」であった。特に、授業ではグループディスカッションを取り入れたため、「他の学生の意見を聞く大切さ」「自分の意見を他人に伝えることの難しさ」「まとめることの大変さ」などの意見が授業後の感想として見られたため、これらの評価につながったと考える。 また、前年度までは、「授業のテーマ・目標を明確にしてほしい」「シラバスの内容・成績評価の内容を明確にしてほしい」などの意見が見られたが、シラバス作成や最初の授業等での説明を行ったことにより、学習デザインの改善につながったことが考えられた。	授業評価表の分析結果をふまえて、学生の評価が高かった項目は引き続き率先して取り組み、改善の要望があった項目は改善に努める。特に、ここ数年取り入れているグループディスカッションにおいては、地域活性化計画の計画書作成(直売所や6次産業化事業等)に関しては、学生に対する学習効果が高いものと感じている。ただし、座学で行う教科書的な内容をいかにディスカッションに結びつけるかに関しては、まだまだ改善の余地が残されているといえる。今後は、座学においても、学生が理解しやすいような、農村・農業の現場に近い話題を取り上げることで学習意欲や思考能力の形成に努めていきたい。	

平成30年度前期・学部授業評価まとめ

整理番号	講義名	講義コード	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
35	食料貿易論	18344310	25	19	76%	4.37	すべての項目において、科目群平均よりも高いポイントを得られた。また、すべての項目において、平均点が4.2以上であったことから、全体的に高い評価を受けることができたと考えられる。	「教員の説明はわかりやすかった」という項目に対して10.5%の学生が「そう思わない」と回答していることから、教授方法にまだ改善の余地が残されていると考えられる。授業のストーリーをより明確にするなど、教授方法の改善を行う。	
36	食料マーケティング論	18344311	27	21	78%	4.51	各項目とも、評価はおおむね良好である。やや低い項目は、「授業の難易度の適切さ」である。ただし、基礎理論の習得を目的とする科目のため、大きく内容の変更を行うことはできないことを考えると、概ね目的を達成していると考ええる。	次年度以降も、基本的な内容は変えずに継続していきたい。なお、出来るだけ事例を最新のもの、分かり易いものにブラッシュアップしていくことを心がけたい。授業の難易度については、当面、様子を見ることにしたい。	
37	生物資源経済論	18344312	25	23	92%	4.26	授業評価アンケートの8項目(10項目中)で平均値が4.0以上(5段階中)であった。一部4.0を下回った項目は、「授業の難易度が適切であった(平均3.9)」と「学生と教員とのやりとりには双方向性があった(平均3.7)」の2項目であった。「そう思わない」「全く思わない」と全ての項目に回答している学生が1~2名ほどいた。	授業の難易度や双方向性については、20名以上の学生が適切であると評価しているため、修正することは考えていませんが、授業終了後に個別に対応できるような形でサポートをすることを考えている。	特にありません。
38	生物物理化学	18345303	37	34	92%	4.42	すべての項目が、平均値より高い値となっている。特に、共-60(学生と教員とのやりとりには双方向性があった)、共-68(教員は授業に十分準備して臨んでいた)、共-81(教員は授業に対して熱意を持っていた)についての評価は高く、4もしくは5をつけた学生が97%を超えている。	共-221(この授業内容についてより深く学びたいか)の点数は、平均値より上ではあるが、2もしくは3を選択した学生が10名程度いることから、次回は学生の意欲を向上させる取り組みが必要と考えられる。	
39	有機化学Ⅱ	18345304	24	18	75%	2.8	学生に問題解決能力、理解力、応用力などを身につけさせるために、様々な練習問題を通して学生参加型の講義を試行しているが、基本的には学生の能力の向上につながる結果が得られているように思われる。講義の出欠はmoodleにログインすることにより、自動出欠が記録され、毎回問題を出題してmoodleに回答させることにより評価採点している。問題は講義内容に関連はしているが、教科書には記載していない内容を主として選んでいる。教科書をそのまま覚えれば解答できるのではなく、応用力がなければなかなか正解しにくい点が困難であるようである。	moodleへの解答が不十分で、内容の理解が不十分なまま終了したケースがある。しかも、自ら質問をする学生は全くみられなかった。ただ単に記憶すれば良いのでは無く、できるだけ考えさせるような講義形式をとったが、学生は、あまり慣れていないらしく、自分で考えることができず内容の理解が不十分なようであり、今後の課題となった。	
40	生物化学各論Ⅰ	18345305	43	22	51%	4.01	分量の多い講義内容であったが、真面目に講義に臨んで取り組んだと感じられる。	農芸化学分野の専門性を高めると意識が持てるような講義をめざしたい	
41	発酵微生物学	18345306	96	68	71%	4.37	今回大きく学生アンケートの方法と質問項目が変わり、どのような意見を学生が持っているか興味があった。最後の質問の、この授業に満足しているという学生が全体の7割近かったので、学生の興味と授業の内容が合致していたと考えている。	次回も特に大きく内容を変更する必要はないのではとアンケート結果を見て考えている。	特になし
42	数理生物学	18345307	37	32	86%	3.57	おおむね高い評価を得ていると考えられるが、学修意欲の点が2.9という低い点を示す学生もいた。これは、本講義内容が数学を基礎とすることから、農学部学生が平均的に数学をあまり得意とせず、基本的に興味を持っていない学生がいることが原因であると考えられる。	代謝反応解析が農学分野で重要になっていることを強調することで、学生に興味を湧くように努力したい。	
43	土壌・環境微生物学	18345308	37	18	49%	3.98	回収率は49%と低かった。シラバス、目標設定、難易度に関しては平均より高い評価を得た。一方、教員との双方向性、説明のわかりやすさについては低評価であった。主体的は高い一方で、学修意欲は低かった。	Moodleの利用法をさらに理解する必要がある。この様な評価はこれまで無かったため、今年度内容を改訂した研究レベルの内容が難易であったことが考えられる。さらに学生に聞き取り等を行って対策を講じる。また、学習意欲の評価も上記双方向性や説明の難易度と関係があると考えられることから聞き取りを行う。	
44	農業化学	18345309	36	21	58%	2.86	学生に問題解決能力、理解力、応用力などを身につけさせるために、様々な問題提起を通して学生参加型の講義を試行しているが、基本的には学生の能力の向上につながる結果が得られているように思われる。講義の出欠はmoodleにログインすることにより、自動出欠が記録される。また、moodleに授業内容について、コメントすることを課題としている。授業中の問題提起により、教科書をそのまま覚えるのではなく、応用力がなければなかなか解答しにくいのが、農業/農業に対する問題意識を高める事に役立った。学生たちは資料調べにより授業内容を補足し、各人あらかじめ、moodleに疑問などを書き込んだ。学生は、講義開始後、質疑応答に対応しなければならぬが、多くの場合、学生は十分な対応ができないので、教員が補足説明を行った。予習・コメントの書き込み・それに対する質疑応答のそれぞれの段階で興味をもって対応した様である。	moodleへのコメントの書き込みが不十分で、内容の理解が不十分なまま終了したケースがあることが指摘されている。しかも、自ら質問をする学生はあまりみられなかった。ただ単に記憶すれば良いのでは無く、できるだけ考えさせるような講義形式をとったが、学生は、あまり慣れていないらしく、自分で考えることができず内容の理解が不十分なようであり、今後の課題となった。もっと学生間の討論を活発化する事が望まれる。	
45	植物生理・生化学	18345310	37	17	46%	3.8			
46	分子遺伝情報学	18345311	36	18	50%	4.46	興味を持って講義に出席してくれたと思う。	講義ごとにトピックを明確に提示し、理解や興味の度合いを知るために毎回小テストをおこなった。その結果を基に、次回に補足解説や復習を取り入れたことは受講生から理解を助けたと思う。基礎分子生物学の上に成り立つ最先端技術を伝えられるよう、今後も最新情報を取り入れてわかりやすい講義を心がける。	
47	栄養化学	18345317	40	37	93%	3.96	回収率は高く、92.5%だった。学習デザイン、難易度、双方向性、説明が科目群平均よりも0.1から0.4ポイント低かった。その他の項目は平均と同等か高めであった。	次回から、Moodleを活用した、PowerPointでの授業に板書から変更します。説明することが多すぎるので、内容を少し絞ります。	
48	食糧化学	18345318	45	35	78%	4.32	全体的に4以上の点数となっており概ね好評であった。口頭での説明に時間をかけすぎ理解度をチェックする時間がいつも足りなかった点は次年度からの改善すべき点である。	授業の終わりに理解度をチェックするためのテストを行う。質問時間を設ける。	
49	食品衛生化学	18345320	40	36	90%	4.57	学生のアンケート結果は昨年度までとほとんど変わらない。総合評価としての満足度は高かった。内容的には、今後に役立つものと学生も理解はしている。教科書を指定しており、学問分野への興味もわいているようだが、講義自体が、食品衛生監視員の任用資格取得のための講義の一つであり、内容が多い。講義の最後に毎回、質問を書かせ、次回の講義の始めに回答をプリントして配布し、問題点認識とその解決の共有化を図っている。この質問への回答は毎年、好評である。記憶しなくてはならない部分が多いため、考える力や調べる姿勢の獲得にはつながりにくいと思われる。内容を削ることは困難なので、シラバスにも授業計画として教科書に対応した講義項目を記載している。	できる限り授業時間中に話す内容の精選につとめ、進行もゆっくりしたいが、食品衛生監視員の任用資格取得のための講義の一つであり、内容が多く、半期の講義では完全に解説できる内容量ではない。内容を削ることは困難なので、学生に予習、復習の徹底を促すことにする。毎回の質問への回答は継続する予定である。内容が多いため、1回の講義で1つの項目を終わることが出来ない。内容の精選、講義のテーマの明確化、成績評価基準の明示を心がけたが、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示すことは困難であった。双方向性については、質問を促しても積極的な質問はないので、質問を書かせ次回回答しているが、これだけでは双方向性に欠けると感じている学生が居ることから更に改善を検討する。さらに可能な限り内容の絞り込みを検討し、成績評価基準についてもシラバスにさらに詳しく書きたいが、これ以上は難しい。	

平成30年度前期・学部授業評価まとめ

整理番号	講義名	講義コード	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
50	食品工業分析学	18345332	39	35	90%	4.5	いずれのスコアも4以上であり、概ね授業内容、授業の方向性が共有できているものとする。	これまで通りの双方向授業で実施する。	特になし。
51	単位操作第二	18345333	40	35	88%	4.4	全項目において、全て4以上の評価を得ており、概ね計画通りに講義が進められたと考えている。	次年度以降もわかりやすい講義を心がけていく。	特になし。
52	実用解析	18345334	54	40	74%	3.95			
53	生物統計学	18345405	41	39	95%	3.81	回収率は高く、95.1%だった。教員の授業の準備以外全て、平均より下回っていた。	次回から、Moodleを活用した、PowerPointでの授業に板書から変更します。説明することが多すぎるので、内容を少し絞ります。	ありません。
54	森林保全砂防学	18346302	33	16	48%	4.07	評価は、5と4が多く、評価1は、1件のみだった。従って、現況の授業で十分と考えられる。しかし、評価2にやや目立つ評価項目もあったので、次回の講義に向けて改善に取り組みたい。	双方向性と説明の分かりやすさについて2名が評価2を上げていることから、これらの項目について改善に取り組みたい。ただし、従来の評価アンケートでは欠席の多い学生にこのような批判的な回答が多い傾向があるので、欠席をなくすような試みも考えたい。	
55	森林政策学	18346303	24	12	50%	4.36	アンケートの回収率が50%と低かったものの、全ての共通項目において、科目群平均よりも上回っている。準備(共68)、教員の熱意(共18)、目標の明確化(共53)は4.5ポイントであるが、学習意欲(共221)と双方向性(共60)が4ポイントであった。	授業の準備とともに、主体的な学びを引き出すような双方向性のある授業になるよう、組み立てや課題提示を行いたい。	
56	造林学	18346304	38	18	47%	4.03	回収率および平均値共に低い傾向にあった。複数の教員で講義を行うことによる講義の統一性の欠如が問題である可能性もあり、本講義はテキストに従って行うことから、統一性について検討する必要がある	再度、教員間での講義の連携について再検討する必要がある。また、批判的部分を真摯に受け止め、講義の改善に努める必要がある。	
57	植物代謝制御学	18346305	53	27	51%	4.29	回収率は50%を上回り、他科目と同程度であった。平均値が4.29であったが、双方向性については再度検討する必要がある。	大量の情報を提供するだけでなく、知識の取得と理解は別物であると捉え、双方向に理解出来る講義組み立てについて再検討する必要がある。	
58	木材組織学	18346306	43	19	44%	4.23	「この授業内容についてより深く学びたいか」が3.7と低かったが、他は4.0～4.8の範囲にあり、概ね満足している。	「より深くは学びたいが3.7と他項目より低かったが、ある程度組織名を覚えなければならないこと、この時期に研究室を決めるため、やや興味が薄れるのかもしれない。注視していきたい。	
59	木材化学	18346307	14	7	50%	4.36	全評価項目において評価ポイントは5もしくは4をつけたものが最も多く、概ね教員の授業運営技能、受講者の意欲は高く保たれていたと思われる。評価分布は少ないが、「より深く学びたいとおもわない」に評価ポイント3(どちらでもない)、「授業の難易度が不適切」に低い評価の回答があった。授業の理解が進まなかった学生には次のステップへ進む動機にならなかった可能性がある。	授業内容の理解促進が課題と考えられる。有機化学など基礎科目の理解度の影響を受けやすい内容なので基礎科目の履修を促すこと、疑問点を取りこぼさない授業運営を心がける。また、将来展望を織り込んだ授業内容にすることなどで発展的な意識を持たせたい。	
60	木質資源工学	18346308	46	15	33%	3.7	回収率が低かったが、評価は低い。全般的に相当細かい部分に踏み込んだ内容となっているためと思われる。	左記の理由のため、評価が低いと思われる。既に、木質材料との統合が行われることになっており、両講義の有機的連携に基づく、教育効果の高まりを検討している。	
61	生体分子機能学	18346309	24	20	83%	4.23	専攻教育科目に相応な高水準の学問を、単なる情報の記憶ではなく、科学的事象の本質的な理解に重点を置いて講義した。スライド講義は3回にとどめ、板書を中心に授業を行った。スライド講義では縮小印刷を配布した。受講生の出席率は92.8%で、半数以上が欠席なしであった。全項目で科目群平均を上回る評価を得た。特に、各授業の目標設定、説明のわかりやすさ、熱意は極めて高い評価であった。双方向性については相対的に評価が低かった。「難しい内容だったが、非常に理解しやすかった」とのコメントもあり、良質の講義を提供できたと考えている。しかし、受講生1名が際立って悪い評価を附しており、講義水準を維持しつつも、全員が納得できる教授方法をさらに追及する必要がある。各回講義の位置づけを明確にし、板書講義の分かりやすさには十分に配慮し、高評価を得たが、さらなる改善を続けたい。双方向性に留意して、学生の理解度を確認しながら、講義の進度・難易度を適宜調節する工夫などに努めたい。	コース配属学生の6割にあたる24名が受講し、おおむね意欲的な姿勢で授業に臨んでいた。最初に本講義の概要・位置付けを説明し、重要箇所を繰り返し説明する時間が取れたことは良かった。課題であった双方向性は不十分で、まだまだ改善の余地がある。次年度は、講義中に小テストや演習などを多めに設けて、学生の理解度を随時確認しつつ、丁寧に授業を進めていきたい。板書速度については改善されたと考えているが、スライド講義では進行が速く、学生からの不満があった。次年度は配布資料の内容についても改善を検討したい。オフィスアワーの利用学生がいなかったことで制度の周知を図り、個々の学生のフォローアップを充実させたい。	次年度はW5号館での講義になるため、2018年度後期の実施状況を精査し、想定される不都合・不具合については事前の対応をお願いしたい。
62	資源高分子科学	18346310	24	16	67%	4.34	「授業の難易度は適切であったか」と「この授業内容についてより深く学びたいか」のみが平均値よりも低く(それぞれ3.7および3.8)、それ以外の設問はすべて平均値より高く4.2以上であった。最高点は「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」の4.8であった。好評価であったと考えている。平均値よりも低かった2設問については、授業の内容が難しいことに起因している。	「授業の難易度は適切であったか」と「この授業内容についてより深く学びたいか」のみが平均値よりも低く(それぞれ3.7および3.8)、それ以外の設問はすべて平均値より高く4.2以上であった。最高点は「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」の4.8であった。好評価であったと考えている。平均値よりも低かった2設問については、授業の内容が難しいことに起因している。	自由記述欄に「また異先生の授業受けたいです!!」とあった。こちらの取り組みが響いてくれたと思うと、教員冥利に尽きる。
63	バイオマテリアル科学	18346311	17	11	65%	4.14	評価は、5と4が多く、従って、現況の授業で十分と考えられる。毎年、講義内容を変えているので、今後数年の結果をみたい。	毎年、講義内容を物理化学的視点と材料科学的視点との間で、スイッチしながら実施しているので、今後数年の結果をみたい。	
64	環境生物学	18346312	38	23	61%	4.33	別途、アンケート用紙を配布してもアンケートを行っており、それらを含めるとほぼ全員からの評価結果を得ていると考えられる。Webアンケートでは全項目が平均4.0以上であり、個別項目でも評価2, 1はほとんど無い。記述式のアンケート意見からも、講義に対する全体的な満足度の高さが窺える。	シラバスや授業計画の提示については改善の余地がある。これは、本講義が「環境生物学」というテーマに対して2名の講師が全く異なった形式で進める講義スタイルであるため、評価方法を事前に予想することが難しいためである。その一方で、講義を受ける側からは、それが魅力になっている側面もあるため、若干のクレームはやむを得ないかもしれない。講義内容については更にアップデートし、最新の環境生物学を効果的に伝える努力を継続する。	箱崎では設備が古かったため、伊都キャンパスでの講義に期待している。
65	森林水文・水資源学	18346313	38	19	50%	4.11	講義全体を通して、高い評価が出ていると考える。特に、教員への評価に関して授業の準備や、授業に対する熱意の項目に、また学生の主体性にかんして遅刻することなく毎回出席という項目に高い評価がついている。次年度においても、きちんと準備を行い、熱意をもって授業に臨むことで、学生が主体性を持って履修できる環境づくりを続ける。一方で、授業の難易度の適切性、学生-教員間の双方向性、学修意欲に関しては、相対的に低い評価となったので、授業のデザインに工夫を加え、学修意欲をもう少し高めることができるように心がける。	講義では、中間テストと期末テストを行っているが、その結果を見直して、講義の難易度に関して再考する。また、学生-教員間の双方向性を高めるアクティビティーを1つは増やす方向で、各教員努力をする。	
66	森林資源管理学	18346314	34	15	44%	4.13	授業内容が今後の役立つものであり、学問・研究への関心が広がったと回答した学生が多く、内容に対する評価は概ね良かったと判断された。しかし一部の学生から「休講が多すぎる」、「シラバスを充実してほしい」との意見があり、改善する必要がある。	次回から講義担当者が代わるので、内容を一新し実施する。	
67	森林計画学	18346321	30	14	47%	4.32			
68	動物生殖生理学	18347301	19	12	63%	4.4	アンケートについては特に説明しなかったが、回収率は63%であった。総合評価は4.5であり、すべての項目で4.0を上回っていた。	総合評価は4.5であり、すべての項目が平均点以上であったため概ね良好な授業評価であったと考えられる。今後は常に新しい内容の解説を加え、さらに授業を改善していきたい。	

平成30年度前期・学部授業評価まとめ

整理番号	講義名	講義コード	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
69	家畜生体機構学	18347302	13	10	77%	3.61	本授業は思考力を伸ばすタイプの講義内容ではなく、専門分野における基礎的な知識を習得することを旨としたものである。限られた時間の中で可能な限り多くの情報を提供しようとする、どうしても一方向性の授業にならざるを得ず、そのために評価項目の中で学習マネジメント／双方向性のやりとりが最も低い結果になったのではないかと考えられる。それ以外の項目においてはほぼ3～4の範囲の評価となっており、全体として科目群平均よりもやや低い結果となったことを考え合わせると、つまらなくはないが、飛び抜けて面白くない授業であると受け取られたように感じられる。	毎回、授業開始時に前回の内容に関する小テストを行っていたが、今回はやりっぱなしで終わっていたため、テスト直後に内容の解説、復習を行うなど理解度の向上をはかることが必要かもしれない。また、授業中に学生が発言する機会を増やすなど、授業に参加していることをより実感できるような工夫をすることも検討してみる。	本授業は選択必修科目であるにも関わらず、本年度は対象分野の学生の半数以下しか受講していなかった。受講しなかった学生の、自分が所属する分野で何を学ぶべきかという目的意識がどうなっているのか、理解に苦しむ年度であった。
70	動物発生学	18347303	20	12	60%	4.18	共通項目10項目中7項目で評価点4.2を超えていた。評価点4.0を下回った項目は授業の難易度(3.5)、双方向性(3.8)、説明のわかりやすさ(3.9)であった。学習範囲が広く、情報量が多いため、双方向性の低い授業となり、その結果、難易度が高く、説明がわかりにくく感じられたと考えられ、今後改善すべき点である。総合評価は4.3であり、回答者12人中11人が評価点4以上をつけていることから、難易度の割にはある程度の満足度が得られていたと考えられる。	難易度が高いと感じられているが、情報量を減らすことは困難であるため、学生の理解度を確認しながら授業を進行させるような工夫が必要であるとされる。特に、双方向性については、授業後に質疑応答を促してはいるが、質問しづらい状況であることも考えられるため、小テスト・アンケートなどを利用して学生からの発信を促すなどの対応を検討する。	
71	動物性食品製造学	18347304	35	20	57%	4.53	設問3, 4を除く全ての項目に対して評価点4.0を超える評価が得られたことから、概ね良好な授業評価であったと考えられる。(平均点は4.08; アンケートの回収率は57%であったので、評価の精度は高くはないと考えられる)。設問4は講義の双方向性を問うものであり、評点は3.7であったことから、改善すべき点であることがわかった。設問3は講義の難易度に関するものであり、評点は3.9であった。学生の理解度を複数回の小テストで計ってはいしたが、対策はまだ不十分であったと考えられる。本講義ではPowerPointのハンドアウトを一切配布せずに、ノートを自作するよう指導した。学生の集中力を高めることを期待した策の1つであり、大きな効果があったと思われる。	アンケートの回収率を高めるため、引き続き指導を行う。「大事な項目については、スライドを書き写す時間を確保してほしい」とのコメントが寄せられたので、講義の進行速度を適宜調節する。また、「スライドをもっと日本語にして見やすくしてほしい」とのコメントも1件あり、スライドの幾つかを改善する。前項の分析結果を受け、授業の双方向性、調べる姿勢、考える力、能動的な姿勢に関しては、これらを向上すべく講義の形式や内容を更に改善する。実際の実験データを示しつつ講義を展開したが、これ以外の工夫も今後実施する。	特になし。
72	家畜飼養管理学	18347305	22	17	77%	4.34	履修登録者22人中、17名が回答した(77.3%)。全項目を通して、科目群平均は3.7-4.3であったこと、1(全くそう思わない)を回答した学生が皆無であったこと、「総合的に考えて、現在この授業に満足している」において5(強くそう思う)を約65%の学生が選択したことから(平均4.1)、授業内容や実施方法は適切であったと考えられる。特に評価が高い項目は、「教員は授業に十分準備して臨んでいた」「教員は授業に対して熱意を持っていた」「授業には遅刻することなく毎回出席した」(すべて平均4.3)であった。比較的评价が低い項目は、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」(平均3.7)であった。	授業内容や教員の準備状況および授業の取り組み方、シラバスの記載についてはおおむね満足度が高いため、現状を維持するとともに、関連する最新情報を収集して授業内容をアップデートするなど、学生の知的好奇心を一層のばせるように努める。学生と教員との双方向性については、1) 授業中に質疑応答時間を設定する、2) 小テストなどを利用して学生からの発信の機会を与える、3) オフィスアワーを設定して学修相談を受ける体制を整えるなどの対応を検討する。	
73	動物遺伝育種学	18347306	18	10	56%	4.56	アンケートについては特に説明しなかったが、回収率は56%であった。総合評価は4.5であり、すべての項目で4.3を上回っていた。	総合評価は4.5であり、すべての項目が平均点以上であったため概ね良好な授業評価であったと考えられる。今後は常に新しい内容の解説を加え、さらに授業を改善していきたい。	
74	水産資源学	18347320	19	10	53%	4.62	履修登録者19人中、10名が回答した(53%)。評価点は4～4.8で、特に共-53(教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した)、共-67(教員の説明はわかりやすかった)、共-81(教員は、授業に対して熱意を持っていた)、共-18(授業には遅刻することなく毎回出席した)、共-10(総合的に考えて、現在この授業に満足している)が4.8と高評価であった。一方、共-60(学生と教員とのやりとりには双方向性があった)の評価点が4で、最も低かった。	毎回、前回講義分の小テストを課していることが学生の理解度を深めている。自由記述でも「小テストが毎回あったことで、期末の勉強がしやすくて良かった」とあった。授業は現在のやり方で良いように思うが、双方向性に関しては、講義の質・量を減らすことなく、さらに工夫が必要である。	
75	魚類免疫学	18347321	22	11	50%	4.66	最終講義の中でアンケート実施のお願いをしたものの、アンケート回収率が全体の平均よりも低い50%であった。すべての共通項目が4.6以上と平均を上回り、「説明が分かりやすかった」という項目が4.8であったことから、学生の理解度に応じた授業が実施できたと考えている。学生の満足度と試験の結果が相関していることも確認できた。自由記述欄において「毎回の講義で前回の内容の質問に答えてくれるのが良かった」という意見が複数あり、講義の始めに実施する「学生の質問に対する解答」は学生の理解を深めるのに役立ったと思う。	今後も継続して免疫学を身近に感じるような説明を心がけ、細かい知識ではなく免疫学の概念を理解してもらえるような講義を意識する。また、毎年同じ内容ではなく、その年のノーベル賞の内容など世の中の科学のニュースと関連付けた授業内容を取りいれたりすることで、その年の話題に合わせた内容に多少変更していきたい。毎回、講義の内容に関する質問を受け付け、次回の講義までにほぼすべての質問に対する解答を作成し、講義の始めに解説している。アンケート結果から役に立ったと意見があったので、教員にとって負担ではあるが、今後も継続していく。	授業アンケートの回収率が低かったのは、学生への周知が足りなかったためだと考えられる。講義の時間を使って実施するのは良いことだと思えないので、最終講義の3～4週間前から何度も学生に周知する予定である。
76	海洋微生物学	18347323	22	11	50%	4.52	科目群平均点と比較すると全ての項目で上回っていたので、まずまず適切な講義ができたのではないかと思います。「教員は授業に対して熱意を持っていた」という項目が特に高評価だったのは、率直に嬉しく思いました。4点を下回ったのは、「学生と教員とのやりとりの双方向性」の項目でした。講義の中で質問時間をもっと積極的にとる、テーマを決めて討論形式を導入するなどの工夫が必要かもしれません。	来年3月に定年退職しますので今回が最後の講義になります。後任の教員はもちろん自由に講義されて構いませんが、参考になりそうなことは伝えたいと思います。	
77	水産生物環境学	18347325	19	9	47%	4.47	授業評価の分析 共通項目は全て4.2以上と平均を大きく上回っており概して授業は上手く出来たと考えられる。コメントでも環境問題に触れることができ良かったとされていた。今後も授業の資料、内容、進め方についてさらに改善を加えたい。	授業評価で大きな指摘はなかったが、より面白く、ためになる授業となるようにしたい。	
78	藻類学	18347327	25	11	44%	4.32	アンケート回収率が44%と低調であったため、各質問項目への評点が真の値であったのか疑問がのこるものの、全ての項目で全体平均以上であった点はまずまずの講義だったと考える。ただし、突出して高評価を得た項目がなかったということは、可もなく不可もなくという平凡な授業であったともいえる。平均評価を下げた要因が「双方向授業の欠如」であった。全体平均も低いようだが、いわゆる「伝統的な講義形式」で進めており、他の項目に比して低評価を受けた要因と考えられた。	いかに双方向授業を成り立たせるかをよく考えたい。討論形式の授業形態は、講義内容のボリュームを考えると対応が難しくなるので、例えば質問の時間を確保する、あるいは毎回授業アンケートを取る中で、履修者の理解が不足しているであろう内容、履修者からの質問を次回の授業開始時に回答する、などということを試してみようと思う。	また、授業アンケートの回収率を上げるために、次年度は積極的な周知を心がける予定である。